

10 地域との連携

10-1「癒しの川づくり」

(1) 「癒しの川づくり」に向けての取り組み

子吉川では、平成7年から河川愛護団体や住民等により、毎年「クリーンアップ活動」や「河川敷花壇の花植作業」等が行われ、子吉川の美化活動が地域の自主的な取り組みによって行われている。

このほか、子吉川のほとりにある本荘市第一病院では、川と人の健康に着目して、川を取り入れた医療が実践されており、“子吉川リバーサイドウォークラリー”などのイベントが行われている。

これらの取り組みを契機とし、河川の持つ様々な特性、魅力や効用を生かし、すべての人々にとって、健康づくりの場、心身を癒す場、さらには医療・福祉機関との連携を図った心身のリハビリテーションの場となる河川空間整備に向けての取り組みが始まった。

平成10年度には「癒しの川づくり懇談会」(座長＝清水浩志郎秋田大学工学資源学部教授)が設立され、心と体を癒す川づくりのあり方の理念を構築した。

この癒しの川づくりの理念に基づき、整備される施設はもとより運営・管理までを含めた検討を行うため、平成12年に「癒しの川づくり検討会」(木谷豊四座長)が発足し、より良い河川空間の実現のための検討が行われた。

検討が進む中で、子吉川と河川敷の利用推進のため、健康活動や自然観察、船上観察などとともに、クリーンアップなど環境美化運動を目的に「子吉川市民会議」(木谷豊四代表)が平成12年12月に設立された。

【癒しの川づくり懇談会の様子】



出典：秋田河川国道事務所資料

(2) 事業の概要

「癒しの川整備事業」は、子吉川の飛鳥大橋から由利橋までの左岸 約800mの河川敷を対象として行われた。

平成10年度から始まった事業の内容は、癒しの川づくりの理念に基づき、高齢者や障害者も利用しやすいように堤防の傾斜を緩やかにしたほか、遊歩道や親水護岸、隣接する河川公園(友水公園)とを結ぶ管理道を兼ねた遊歩道などの整備を行った。

また「癒しの川整備事業」には本荘市も加わり、おむつを取り替える機能の付いたトイレや水飲み場、ベンチなどを整備した。

平成14年5月19日にオープンし、本荘市が募集していた愛称から、癒しの川全体は「せせらぎパーク」、大沢川に架かる2本の橋が「ニコニコ橋」、子吉川に突き出た3つの水制護岸が「よしきり川原」、癒しの川から下流部のアクアパルまでの遊歩道が「かわかぜロード」と命名された。

【船着き場から子吉川をみる】



せせらぎパークはこんなところですよ！

癒しの川全体 ----->「せせらぎパーク」 3つの水制護岸 ----->「よしきり川原」
大沢川に架かる2つの橋 ->「ニコニコ橋」 アクアパルまでの遊歩道 ->「かわがせろード」



【散歩の様子(うしろは本荘第一病院)】

出典:秋田河川国道事務所資料

癒しの川づくりの目指す基本的な方向は、河川空間を福祉の視点で認識することにある。利用したいすべての人々が、いつでも気軽に訪れ、川が本来持っている心や身体の癒しを存分に享受できる川づくりが必要である。そのため、基盤整備や施設などのものづくりは、そのプロセスで行政や医療・福祉関係者、利用する市民が協調・連携し、協働で実施するユニバーサルデザインの理念による「場」づくりがキーポイントである。それと同時に、地域における利用の仕組みや利用者、市民の川を愛する心を育てていくことも必要であるとの共通の認識となった。

このように、子吉川では、市民、行政、河川管理者の連携・協働した新たな河川づくりが始まっている。

10-2河川利用の促進

(1) 子吉川フェア

子吉川は流域の生活を支えてくれるだけでなく、スポーツやレジャーなど、生活に潤いを与えてくれる場として古くから親しまれており、河川を利用した様々なイベントが催されている。

その一つとして、国土交通省では7月を河川愛護月間とし、より一層の河川空間利用を促すために、毎年「子吉川フェア」を開催している。当時の建設省の近代治水 100 周年を記念して、七夕伝説の天の川のイメージのある7月7日を「川の日」に制定したのを受けて、川に親しみをもち、愛される川づくりを進めていくための交流の場にしようと、平成8年から始まったイベントである。

「親子船上観察」「魚のつかみどり大会」「カヌー体験」など、様々な催しものがあり、数多くの参加者で賑わう。



【子吉川フェア】

7月は河川愛護月間・7月7日は「川の日」です。

感じよう!川が奏でる豊かなハーモニー

第9回 子吉川フェア

7月18日 10:00 ~ 15:00

会場:本荘ポートプラザ アクアバル
本荘市友水公園ほか

第15回 同時開催
子吉川いかた下り大会

EVENT

多目的ホール

- ・開会式
- ・「環境・絵画コンクール」表彰式
- ・オープニングセレモニー
- ・つくってあそぼう(キーホルダー)
- ・押し花(かきもしり)作成体験
- ・ラッキープレゼント
- ・閉会式

アクアバル館内および周辺

- ・「環境・絵画コンクール」作品展示
- ・フリーマーケット「水辺のまち市場」
- ・魚食体験コーナー
- ・飲食コーナー
- ・川の恵みをつむぐ「ハザード」展示・展示プレゼント
- ・フットボール・ソフトボール・野球・サッカー
- ・各種バレーボール
- ・子吉川歴史資料展示コーナー
- ・環境とエシカルコーナー
- ・魚のつかみどり大会

友水公園会場

- ・環境ふれあい広場
- ・サビコイタイムズミニコンサート
- ・クラウン・ゴルフ・自由体験

河川会場

- ・親子船上観察
- ・カヌー体験

主催:子吉川フェア実行委員会

子吉川フェア実行委員会事務局 TEL0184-22-5611

(2) ボートプラザ・アクアパル

コース延長 1000m, レーン数 5
の日本漕艇協会の B 級公認コース

子吉川フェアの会場となる「本荘ポートプラザ・アクアパル」は、平成元年 3 月策定された「子吉川環境整備構想」に基づき、本荘市が整備を進めていた『河川利用総合レクリエーション施設』である。国土交通省ではコンクリートむき出しだった対岸の護岸を緑の川岸に替えるとともに、付近の堤防に「桜づつみ」を整備するなど、エリアとしての「市民と子吉川の接点づくり」を本荘市と一緒に展開してきた。



アクアパルは、本荘市の新たなランドマークとして市民に親しまれており、その周辺が整備されたことで、市民と水とのふれあいの機会はぐんと増えている。

アクアパルには、市や圏域住民、そして地元中学・高校が所有するボートと市所有の貸し出し用のボートやカヌーなど約 70 艇を収容する艇庫を完備している。ボートやカヌーに関する講習会が毎月開かれるほか、施設内のフィットネスジムにはボート系のトレーニング器具が置かれるなど、随所にこだわりを見ることができる。

文化面における活用も幅広く、子吉川の自然科学を楽しく学べる「水と川のミュージアム」や、子吉川やボートレースの歴史を紹介するシアター、約 300 名収容できる多目的ホールなど、地域の誰もが様々なことに利用できる。このほか、セミナー室やスカイギャラリー、喫茶コーナーなども設置されている。

【水と川のミュージアム】



【多目的ホール】



【セミナー室】



【ボートガレージ】



【フィットネスジム】



【スカイギャラリー】



出典:「子吉川」秋田河川国道事務所
「本荘ポートプラザ・アクアパル HP」

(3) その他の活動

総合学習の支援を行い、国土交通省ならではの情報や知識を提供し、子供達の意欲的な学習のサポートを行っている。

河川に関する情報を地域に対し、パンフレットやインターネットホームページ等により提供し、地域のニーズの把握に向けた住民参加の各種懇談会を開催し、常に双方向の情報交換に努めており、川と人々とのつながりや流域連携の促進及び支援、河川愛護意識の定着と高揚、住民参加による河川管理を推進している。

国土交通省秋田河川国道事務所では 「総合的な学習の時間」の 取り組みをお手伝いいたします。

学習サポートのご案内



サポート内容

MENU

お申し込みについて

[これまでの「総合的な学習の時間」の取り組みはこちら](#)